



小笠原村立小笠原中学校 学校だより

令和4年12月1日 第8号

小笠原村立小笠原中学校

校長 椎橋 秀行

学校ホームページ

<https://www.ogachu.ogasawara.ed.jp>



学校フェイスブック

<https://www.facebook.com/ogasawara.jhs>



年の瀬、締めくり、そして新年へ

校長 椎橋 秀行

12月に入りました。12月はよく言われる「師走」(しわす)、「極月」(ごくづき)など、あわただしいイメージのある月です。そんな中で、「春待月」(はるまちづき)と呼ぶ場合もあるそうです。ばたばたする焦りではなく、「春待月」は言葉の響きが柔らかく、希望に満ちた温もりが感じられます。そんな12月を送り、新年を迎えたいと思っています。

先月末には、2年生の職場体験があり、地域の事業所の方には大変お世話になりました。自分たちが中学生だった時は職場体験などなく、身近な仕事といえば、親や親戚、先生などでした。当時に職場体験があったら、もしかしたら今の仕事についていなかったかもしれません。実際、生徒たちにとって、仕事の大切さや厳しさなど貴重な体験であったと同時に、自分の将来を考えるいい機会になったと思っています。

また、3年生は今年から始まった中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) が行われました。これは前回の学校だよりに掲載されたとおり、都立高校の入学学力検査の一部として、実際に入学選抜の得点に加算されます。内容は、「コミュニケーションが達成できているか。(相手の求めていることに答えているか。)」 「言語使用は適切であったか。」 「相手に伝わる音声で話せているか。」 の3つの観点で評価され、生徒の話す解答はそれぞれ異なっても、できているところが評価されます。以前の試験のように、単に正解に合っているかではなく、これまでの小・中学校で学んだ英語で「どれくらい話せるようになったか」が試されました。より「使える英語」が求められるグローバル社会のニーズに沿ったものです。27日に小笠原高等学校で行われ、生徒たちは入試同様に式服で臨みました。進路決定に向けての、入試がいよいよ始まったと言えます。

そんな中ですが、来る春に向けてしっかりとした備えをしてもらいたいものです。そのためには、今年をしっかりと振り返り、自分ができたこと、できなかったことなどを確かめておくことが大切です。今年はコロナ禍による学校行事などの中止や延期もほとんどなく、日々の活動の中で、生徒たちの「頑張る姿」や「成長する姿」が感じられたのではないのでしょうか。課題も同時に見えてきたこともあるかと思います。それらを克服・改善し、さらによい1年にできるよう準備していきたいと思っています。

また、第8波が懸念されています。来年こそは、感染拡大が終息し、不安のない平常の活動を安心して送れるよう、そして希望に満ちた温もりを感じられる新年になるよう願うばかりです。

第2学年キャリア学習「先輩のお話を聞く会」

第2学年担当 高部 みなみ

10月29日(土)に第2学年ではキャリア教育の一環として「先輩のお話を聞く会」を行いました。

講師に小笠原中学校の卒業生3名をお招きし、先輩方の進路選択や、当時の思い、今の思い、受験勉強について、お話を伺いました。島で働くことと内地で働くことの違いや留学についてのお話も大変興味深く、生徒は一生懸命にメモをとりながら、積極的に質問していたことが印象的でした。

3名の卒業生が共通して伝えてくださったことは、「とにかくチャンスをつらつかみに行くこと」「自分の意思をもつこと」でした。

様々な進路があり、それに正解がない今の時代、進路選択に悩んだ時、自分の経験談を話してくれたり、相談に乗って



くれたり、見守ってくれる大人がいることは、すごく心強いことだと感じています。生徒には、周りの大人の方が手厚く見守ってくれるこの小笠原の環境に感謝しながら、自分の納得のいく進路選択をしていってほしいと思います。

今回の「先輩のお話を聞く会」にご協力してくださった高野 一海さん、森下 七緒さん、梅津 亜月さんに、この場を借りて深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



生徒会活動「後期生徒会総会」

生徒会担当 多久 優麗花

10月26日(金)に後期生徒会総会が行われました。後期からは生徒会の中心が2年生となり、生徒会役員からの「テスト前の朝読書の時間の学習」についての



提案や、保健委員からの「ハンカチチェック」などの新しい取組も計画され、新しい風が吹き始めています。議案書討議によって挙げられた質問にも、各委員長が丁寧に回答し、各委員会で行っている活動をさらに分かりやすく紹介することができていました。よりよい学校生活が送れるよう、今後も生徒一丸となって生徒会を運営していってほしいです。



「第41回全国中学生人権作文コンテスト」「第74回人権週間」

国語科担当 野内 由紀子



先月の学校だよりでも紹介しましたが、本校では毎年、国語科の授業で全校生徒が人権作文に取り組み、「全国中学生人権作文コンテスト」に応募しています。この「全国中学生人権作文コンテスト」は、次代を担う中学生が人権問題について作文を書くことによって、人権尊重の重要性、必要性についての理解を深めるとともに豊かな人権感覚を身に付けることを目的としています。

小笠原村からは、本校の2名の入賞者(小笠原村最優秀賞 第2学年 猪村 汎乃さん、小笠原村優秀賞 第1学年 菊池 純さん)を含む4名が選出され、さらに東京都大会島しょ地区の2名の代表作品のうちの1名に猪村さんの作品が選出されました。全文を掲載し、総合的な学習の時間での小笠原学習を通じて、猪村さんが人権と真摯に向き合う姿を紹介したいと思います。

また、12月4日(日)～10日(土)は第74回人権週間です。基本的人権尊重の原則を定めた世界人権宣言の採択日である12月10日は「人権デー(Human Rights Day)」であり、人権について改めて考える機会にしてほしいと思います。

「忘れないう思ひ」

小笠原中学校 第2学年 猪村 汎乃

私は小笠原諸島の父島に住んでいます。小学1年生の夏の暑い日に母とアイスクリーム屋さんに行った時、どついう流れでそうなったのかは忘れてしまいましたが、母と店員さんが硫黄島という島の話をしていました。硫黄島という島があること、その島では戦争があったこと、そしてたくさんの兵士が亡くなったということを、その時初めて耳にしました。

しかし私は、戦争についてその時は何も知らず、母と店員さんの話を聞いていただけでした。その時私は「硫黄島は怖い島」という認識を通して。しかし、怖いという感情はある学習を通して消えていき、硫黄島に対して新たな感情が生まれました。

中学2年生になり、総合的な学習の時間で平和の大切さや、戦争の悲惨さなどを知る平和学習が始まりました。まず、夜明山戦跡調査という父島に残る実際の戦跡を見たり、戦跡の説明を聞いたりしました。事後学習では、戦跡調査で感じたことを五・七・五の川柳にしました。私はこのような川柳を作りました

「夢を見る 平和な暮らし その先に」
なぜ、兵士や壕を作る人たちなどは、大変なことと苦しいこと辛いことがあった中でも頑張ることができたのか。自分の国のためという人もいたと思います。自分がかつては、自分が頑張ったその先に家族や、恋人、ペットなどが平和に暮らしていると信じていた人もいたのではないかと考え、その人達

の気持ちを川柳にしました。今はとても豊かな父島だけれど、過去を振り返るととても悲惨なことがあったということを改めて実感できた戦跡調査でした。

そして、硫黄島訪島事業という小笠原に住む中学2年生しか行くことができない硫黄島に行きました。私の姉と兄も硫黄島に上陸したことがありますが、今回は上陸せずにおがさわら丸の上で旧島民の方の話や、硫黄島慰霊祭、硫黄島の観察をしました。事前学習では、硫黄島が昔はとても豊かだったということ、戦争が始まり硫黄島に住んでいた人は強制疎開をされて、今も硫黄島に帰ることができないこと、戦争が終わって何年か経つが一人以上の遺骨がまだ見つからないことを知り、胸が痛みました。

そして、初めて硫黄島を目にした時、一見普通の島に見えて、本当にこの島で戦争があったのかと思えました。父島に空襲によって傷つけられたヤシの木の傷が今もまだ残っていたように、戦跡もさびびりながらも崩れていなくそこにあったように、見つからない1万人以上の兵士の遺骨、硫黄島に帰ることができない旧島民、涙を流す人の姿、代えがたい事実を思い起こさせました。

硫黄島は、日差しが熱く少し動いただけでも汗が出そうになりましたが、風が吹いていたため少しは暑さを遮ることができました。そして、吹いてくる風でかすかに硫黄の匂いがしました。旧島民の方々にとっては懐かしい匂いだったと思います。

硫黄島を離れる時、私たちが乗っている船の汽笛が長くなりました。その汽笛は硫黄島と、硫黄

島で亡くなった方々に「また来るね」と言っているように思いました。汽笛と同時に、私と友達の手を合わせました。私は、1日でも早く兵士の遺骨が見つかり、家族の元に帰ること、豊かな硫黄島が戻ることを、そしてこのようなことが二度と起こらないことを願いました。

硫黄島訪島事業を終えた今、私にはさまざまなお思いを抱いています。小笠原で戦っていた兵士は小笠原のきれいな星を見たでしょうか。それとも星など見ている暇もないくらい大変な思いをしていたのでしょうか。少しでも心が休まる時間があったのなら、嬉しく思います。戦争で大切な人を失った人は、どうしてこうなってしまうのかという答えの見つからない疑問に心を苦しめているのではないのでしょうか。時間は戻らないと分かっているけれども、もう一度会いたい、笑顔を見せてほしいと願っている人もいると思います。

私は硫黄島に対して怖いという感情をもっていましたが、平和学習を通して、戦争がどんなに悲惨だったのかということを知り、戦争に対して自分の考えを深めることができました。平和学習で学んだことや、硫黄島に行ってみて感じたことをこれからも忘れずに生きていきたいです。



「子供を笑顔にするプロジェクト」

保健体育科担当 柴山 暁人

11月9日(水)に「子供を笑顔にするプロジェクト」による「ケッチのコメディショー+パントマイム教室」を開催しました。これは東京都教育委員会の事業で、新型コロナウイルス感染症の影響で学校行事が中止や縮小となる中、「見る、聞く、触れる」などの体験を通じ、笑顔を取り戻し学び続けていこうとするきっかけとするべく実施された事業です。小笠原中学校では、講師として、元が〜まるちよば(赤モヒカン)のケッチさんをお招きして、コメディショーやパントマイム教室、さらに「夢は叶う」と題した講演をしていただきました。生徒のみならず参加した教職員や保護者も含め、温かな笑いに包まれた素敵な時間になりました。

ケッチさんからは、パントマイムのコツも伝授してもらいました。その中でも【動作に想いを乗せる】ことが1番大切であること。【その部分に各々の表現の仕方が現れ、それが面白さ=笑いに繋がる】とお話されていました。39カ国でパントマイムを披露した経験や好きなことを突き詰めてこられたお話は、13~15歳を生きる生徒にとっては、とても貴重なお話でした。将来、自分と自分の周りの大切な人を笑顔にするためにも、今回の講演で感じたことを活かして行ってほしいと思います。



12月の行事予定

1月の行事予定

- 1日(木) 安全指導 三者面談始 SC勤務
自転車安全点検 PTA焼き芋配付
- 2日(金) 赤い羽根共同募金終 避難訓練
役員会・学級委員会
- 5日(月) 生徒会朝礼
- 6日(火) 食育講話 学級委員会
- 7日(水) 芝生の日 職員会議
- 12日(月) 学校朝礼
- 13日(火) お弁当の日
- 15日(木) 三者面談終 SC勤務
- 16日(金) 新入生保護者説明会 15:00~
- 17日(土) 授業日 総合発表会
- 19日(月) 学校朝礼
- 21日(水) 職員会議
- 22日(木) 全体学活リハーサル
- 23日(金) 大掃除 全体学活 終業式
- 24日(土) 冬季休業日始

- 1日(日) 元日 成人式
- 9日(月) 成人の日 冬季休業日終
- 10日(火) 始業式 安全指導 百人一首大会
自転車安全点検 発育測定 職員会議
- 11日(水) 食育講話 職員会議
- 12日(木) 避難訓練 SC勤務
役員会・各種委員会・中央委員会
- 13日(金) 職員会議
- 16日(月) 生徒会朝礼
- 18日(水) 芝生の日 小中連携の日
- 19日(木) 職員会議
- 23日(月) 学校朝礼
- 25日(水) 職員会議
- 26日(木) お弁当の日 各種委員会・中央委員会
SC勤務
- 29日(日) ロードレース大会
- 30日(月) 振替休業日
- 31日(火) 生徒会朝礼

※ 1月の予定は現時点のものであり変更になる可能性があります。来月改めてお知らせいたします。